

言えるかな？ もしもの時の 避難場所

学校防災「合言葉」表彰式



第10回石巻市学校防災「合言葉」の優秀作品表彰式が令和4年11月30日、市防災センターで行われ、最優秀賞に選ばれた稲井小1年の菅原一華さんらに賞状が贈られました。菅原さんの作品は「言えるかな？もしもの時のひなん場所 行けるかな？確認しよう ぼくらのルート」で、母親と一緒に考えたそうです。

東日本大震災の教訓を次世代に伝え、防災意識を高めるのを目的に募集した合言葉です。市立小中学校と高校から児童生徒が個人や家族、仲間と災害の備えについて考えた3,960作品の応募があり、審査で最優秀賞1点と優秀・優良各2点、佳作7点、入選9点が選考されました。

令和4年度石巻市学校防災「合言葉」表彰者一覧

賞	合言葉	氏名	性別	学校名	学年
最優秀	言えるかな？もしもの時のひなん場所 行けるかな？確認しよう ぼくらのルート	菅原一華	女	稲井小学校	1
優秀	家族の事 不安になっても戻らない 命を守ればきっと会える	櫻谷雄輝	男	石巻小学校	5
	い・急いで逃げてたかだい し・調べておいた避難場所 の・乗り物ではなく自分の足で ま・守るものは自分の命 き・きつとできるよ大丈夫	本木 玲	女	蛇田小学校	5
優良	考えよう 備えよう 何が起るかわからない おぼえておこう いつでも逃げられる 道と場所	佐藤 綾乃	女	蛇田小学校	3
	「どうしよう」 焦らず命を守るため 普段の確認 「こうしよう」へと	小松 由奈	女	蛇田中学校	2
佳作	「ここ、つなみきそう」「どこににげればいいのか」 はじめての場しよでもまずかくにん	小野 結花	女	石巻小学校	2
	家ぞくで話そうひなん場しよ まわりの人にも声かけよう みんなのいのちまもるため	鎌田 彩希	女	稲井小学校	2
	家族で確認避難場所 いつも心にハザードマップ	遠藤 圭悟	男	稲井小学校	5
	一人でも ちゃんと行けるよ ひなん所へ 確認しようひなん経路	本間 大翔	男	中津山第一小学校	5
	家族でしよう MAPの確認 リュックの補充 命を守る 話し合い	高橋 雄心	男	北上小学校	5
	災害を大きくするか小さくするかは自分次第 知識と備えが命を守る	遠藤 蒼大	男	河南東中学校	2
	備えあり 想定外を想定内へ 守れる命そこにある!	芳賀 永彩	女	河南西中学校	1

☎ 学校安全推進課(内線5082)



最優秀賞は菅原さん(稲井小1年)

身近なことから！SDGs

Sustainable (サステナブル:持続可能な)
Development (ディベロップメント:開発)
Goals (ゴールズ:目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくための世界共通の17の目標です。

SDGsと聞いて、「なんだか難しそう」「遠い世界の話」と思いませんか？実はSDGsの取り組みはとても身近にあり、日常生活の中ですでに取り組んでいることや取り組めることがたくさんあります。今回は、積極的にSDGsに取り組む「大谷地小学校」を紹介します。 ☎ SDGs移住定住推進課(内線4224)

大谷地小学校の取り組み

「復興」という視点で、「つなぐ・つながる」を合言葉に、SDGsの輪を広げ、自分たちの学びを発信しています。5・6年生を中心に、調査活動を基に自分たちができるアクションプランを考えています。専門家の方や地域の方々や交流したり、地域のラジオ局が製作している番組に出演したりして、情報発信を行いました。市内の小中学校や山形県の小学校とも交流しています。

特に、環境問題、国際協力、防災学習については、NPO団体や一般社団法人の方々や連携して体験や交流を行い、学びを深めています。

2年間の取り組みを評価していただき、環境省が主催する第10回グッドライフアワードにおいて、実行委員会特別賞「子どもエンパワーメント賞」を受賞しました。

受賞を市長に報告!



「つなぐ・つながるプロジェクト」大谷地フェスティバル開催!

令和4年10月27日、道の駅上品の郷を会場に大谷地フェスティバルを開催しました。各学年が工夫をこらした活動を運営・発表し、身の回りがある環境や、たくさんの人たちとのつながりを感じられる内容となりました。地域の方々との河北地区の未来を考えるワークショップでは、子どもたちの視点と大人の視点が混ざり合い、より良い河北地区をつくっていくために大切な意見をたくさん交わすことができました。



▲ゴール1「貧困をなくそう」に関する発表。他国の貧困の状況と比較しながら、分かりやすくまとめました。

▼未来の河北地域に必要なと思うことをまとめたボード。ワークショップで出た意見も書き込みました。



◀学級園で育てたサツマイモのつるで輪を作った輪投げコーナー。自分たちで育てた野菜や花の種の販売も行いました。



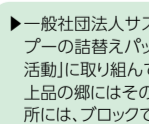
◀自分たちで田植えや稲刈りをした「大谷地米」の販売。値段設定も自分たちで情報を集めて話し合いました。完売したことが嬉しかったようです。

大谷地小学校編

環境問題・国際協力・防災学習の取り組みの一部を紹介します



◀東日本大震災の教訓を後世に伝える活動をする石巻震災伝承の会の方を講師に、津波災害を疑似的に体験できる防災学習プログラムを体験しています。また、段ボールを製作する活動を通して避難所生活についても学びほか、毎年「復興・防災マップコンクール」に取り組み、地域の危険箇所を自分たちで探してまとめています。



▶一般社団法人サステナブルデザイン工房の方を講師に、使用済み洗剤やシャンプーの詰替えパックを回収し、ブロックに再生して活用する「リサイクルーション活動」に取り組んでいます。ブロックにはさまざまな活用方法がありますが、道の駅上品の郷にはそのブロックで1・2年生が作ったプランターが飾られています。市役所には、ブロックで作った詰替えパック回収台などが展示されています。

▶アラブ地域の方々とともにカレンダー製作に取り組んでいます。NPO団体「手づくりんく石巻」の西村陽子さんを講師に迎え、北上川のヨシの繊維で紙をすき、学校園で育てた藍で紙や糸を染め、完成したものを販売しています。売上金は紛争により支援が必要な子どもたちのために活用されており、取り組みを通して平和な社会について学び、考えています。



みんなのた場

スポット
ライト

鯨歯工芸品 千々松商店

地域の伝統工芸

国内でも数少ない捕鯨基地である牡鹿地区の鮎川は、かつて日本屈指の捕鯨基地として栄え、様々な産業が発展してきた町です。鯨歯工芸品もその一つで、鮎川ではマッコウクジラが多く水揚げされたことから、マッコウクジラの歯を主な材料として、印鑑やアクセサリー、飾り物に加工する工芸品店が複数営まれ、捕鯨の町を象徴する工芸品として親しまれてきました。

昭和63年に沿岸捕鯨が禁止されると、多くの捕鯨産業が衰退し、鯨歯工芸品店も廃業が相次ぎましたが、現在でも一店舗(千々松商店)が営業を続けています。千々松商店は、千々松正行さんで3代目となります。千々松さんの祖父は、長崎県唐津市で職人として鯨工芸品を制作していましたが、当時、マッコウクジラが最も水揚げされていた鮎川に移住、その後、昭和3年に鯨歯工芸店を創業しました。

現在、千々松商店は、牡鹿観光物産交流施設「cotu」内に店舗を構えています。もともとは鮎川港を目前に店舗を構えており、東日本大震災により店舗と材料である鯨の歯を流失しています。令和元年に商業捕鯨が再開されましたが、マッコウクジラは未だ捕獲が禁止されており、材料となる歯は、捕獲が許されていた時代に蓄えていたもので、震災後、限られた在庫が残っているのみです。

千々松さんは「他の材料を代わりにはしない。鮎川の地で、鯨の歯で製作してこそ価値がある」と話します。捕鯨文化を継承するという強い気持ちと職人魂が、商業捕鯨の禁止や東日本大震災など、幾多の苦難を乗り越えてきたものと感じられます。

鯨は体が大きく寿命が長いことから縁起物とされ、鯨歯工芸品も「福を呼ぶ」と言われています。千々松さんの作品は、どれも見事な巧みの技が伺えます。近くにお越しの際は、足を運んでみてはいかがでしょうか。

現在、千々松商店は、牡鹿観光物産交流施設「cotu」内に店舗を構えています。もともとは鮎川港を目前に店舗を構えており、東日本大震災により店舗と材料である鯨の歯を流失しています。令和元年に商業捕鯨が再開されましたが、マッコウクジラは未だ捕獲が禁止されており、材料となる歯は、捕獲が許されていた時代に蓄えていたもので、震災後、限られた在庫が残っているのみです。

千々松さんは「他の材料を代わりにはしない。鮎川の地で、鯨の歯で製作してこそ価値がある」と話します。捕鯨文化を継承するという強い気持ちと職人魂が、商業捕鯨の禁止や東日本大震災など、幾多の苦難を乗り越えてきたものと感じられます。

鯨は体が大きく寿命が長いことから縁起物とされ、鯨歯工芸品も「福を呼ぶ」と言われています。千々松さんの作品は、どれも見事な巧みの技が伺えます。近くにお越しの際は、足を運んでみてはいかがでしょうか。

千々松さんは「他の材料を代わりにはしない。鮎川の地で、鯨の歯で製作してこそ価値がある」と話します。捕鯨文化を継承するという強い気持ちと職人魂が、商業捕鯨の禁止や東日本大震災など、幾多の苦難を乗り越えてきたものと感じられます。

千々松さんは「他の材料を代わりにはしない。鮎川の地で、鯨の歯で製作してこそ価値がある」と話します。捕鯨文化を継承するという強い気持ちと職人魂が、商業捕鯨の禁止や東日本大震災など、幾多の苦難を乗り越えてきたものと感じられます。



三代目の千々松正行さん



牡鹿観光物産交流施設cotu内の千々松商店



精巧に仕上げられた作品。置物、タイピン、印鑑、ブローチ、ストラップ

石巻専修大学

「研究室をのぞいてみたら...」

石巻市と石巻専修大学は、地域社会の発展と人材育成および学術の振興を図ることを目的に連携協定を結んでおり、協力して研究活動が行われています。ここでは、地域連携事業の研究成果の一部をご紹介します。

その5 オリーブを活用したオリーブギンザケの養殖について

石巻市は、平成27年から、東日本大震災からの復興樹として平和のシンボルであるオリーブの試験栽培をはじめました。石巻専修大学では、共創研究センタープロジェクト事業(石巻専修大学と石巻市による地域連携事業)として、市内で栽培されているオリーブを餌の一部として用い、地域で養殖が盛んなギンザケの高品質化と新たなブランド化に繋げるための研究を進めてきました。オリーブ採油粕発酵物やオリーブ葉と地元の植物素材を混合し開発した餌は魚の食いつきが良く、環境条件の急激な変化や悪化などに伴う摂餌率の低下が改善されることがわかりました。また、20日間以上の給餌により、魚の抗病性向上やストレス耐性強化、肉質改善にも効果のある(臭みのない肉質で、うま味や甘みがあり、しつこさの残らない後味のよい)ことが明らかとなりました。



養殖中のオリーブギンザケ若魚



水槽から取り上げたオリーブヒラメ



石巻専修大学の屋外水槽

香川県ではオリーブ牛、オリーブ豚・夢豚、オリーブハマチなどが作出され、それぞれ地域ブランドとして急速に定着しつつあります。石巻市でも、水産に係わる県内の研究・教育・養殖事業関係者の協力の下、オリーブ素材と地元の植物素材を活用したオリーブギンザケやヒラメ、ウニなどの海面養殖実施に向けた取り組みを進めています。



石巻市立桜坂高等学校

桜坂だより

第34号

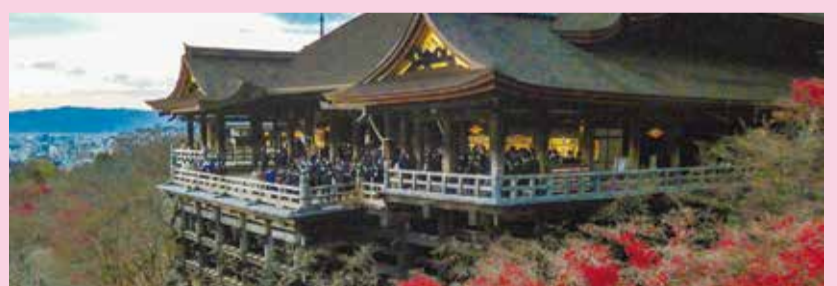


こんにちは、桜坂高等学校です。2学年は令和4年12月13日から16日まで、3泊4日で関西方面へ修学旅行に行ってきました。今月はその様子を紹介します。



清水寺や東大寺の大仏殿、大阪城などでは文化遺産にふれることで歴史を学び、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは、生徒全員が存分に楽しむことができました!

コロナ禍で、昨年、一昨年と行くことができず、3年ぶりの修学旅行となりました。天気にも恵まれ、大変充実した日程を無事に終えることができ、高校時代の大切な思い出のひとつになりました。



石巻 飛躍と消費拡大願い

石巻魚市場で初売り



石巻魚市場では1月5日に初売りが行われ、初日は金華山沖の定置網で漁獲されたイワシやアジ、タラなど12トﾝが競りにかけられました。温暖化などに伴う海洋環境の変化や物価高騰、コロナ禍と水産業を取り巻く環境も厳しいですが、市場関係者や買受人の皆さんは卯年にあやかって飛躍と消費拡大を願いました。



Topic of town まちな話題



河北 抽選会で新春の運試し

道の駅「上品の郷」初売り

道の駅「上品の郷」の農産物直売所「ひたかみ」で、1月1~3日、初売りが行われました。目玉は購入千円ごとに挑戦できる大抽選会。商品券や現金つかみ取りが景品として用意され、抽選機を回して色のついた当たりの玉が出ると、威勢よく鐘が鳴らされました。また、併設する温泉施設「ふたごの湯」では、特製タオルやうさぎ型のせっけんが先着で贈られました。



雄勝 ギターの音色で癒やしの時

おがつクリスマスコンサート

音楽を通して癒やしを届ける「おがつクリスマスコンサート」が令和4年12月24日、雄勝公民館で開かれました。ギター奏者の佐藤正隆さん、小関佳宏さんが「アメージンググレイス」や「川の流れるように」など耳なじみの楽曲を1時間にわたって演奏。2人の軽快なトークを交えつつ二重奏の音色を軽やかに響かせました。



河南 健脚競い起伏コース快走

かなんクロスカンントリー大会

「第16回かなんクロスカンントリー大会」が令和4年12月4日に行われ、小学生から壮年まで203人が参加しました。平成17年の遊楽館オープンを記念して始まり、コロナ禍の休止を経て3年ぶりに実施されました。上り坂や下り坂といった遊楽館周辺の変化に富んだ地形を生かしたコースが特長で、計10種目で自己記録の更新などを目指し、青空の下で健脚を競いました。



桃生 素敵な音楽のプレゼント

本場のジャズ満喫

ジャズサクスの伝道師ジム・バトラーさん率いるグループのコンサートが令和4年12月17日、桃生公民館で開かれました。「クリスマス・ジャズ・ナイト」と題したステージで、住民ら約70人が本場米国のジャズやブルースの名曲を楽しみました。地元バンド「ブルーフェニックス」が著名なゲストを呼び、年に2回ほど開催している催しで、季節感ある音楽の贈り物が多くの人を喜ばせました。



北上 年末年始の食材求めて

大盛況「にっこり歳の市」

歳の市実行委員会が主催し北上地域の地場産品を格安販売する「にっこり歳の市」が、令和4年12月18日に北上観光物産交流センターで開かれました。ミンク鯨(冷凍赤肉)をはじめ、ワカメやアワビ、オリーブオイルなど地場産品が市価の3割ほど安く販売されました。約2,700人(主催者発表)の来場者でにぎわいました。



牡鹿 子どもたちが演奏楽しむ

東北電力クリスマスイベント

令和4年12月12日に牡鹿観光物産交流施設「cotta」を会場に、女川原子力発電所地域総合事務所主催の「クリスマスドリームおしか」が開催されました。本イベントは、原子力立地地域の子どもたちへの文化活動支援の一環として行われるもので、区内の小中学生が招待され、仙台を拠点に活躍するバンド「PMO」の演奏に手拍子で参加し、クリスマスの雰囲気を楽しんでいました。

